

平成10年度埋蔵文化財 発掘調査報告書

市内遺跡確認調査

宮浦遺跡
下場遺跡
猿ヶ馬場A遺跡
前田遺跡
西野遺跡

1 9 9 9

新潟市教育委員会

例 言

1. 本書は平成10年度に実施した新潟市内遺跡の範囲確認調査の報告書である。
2. 調査は国庫及び県費の補助金交付を受けて、新潟市教育委員会が主体となり埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査で得た資料は、埋蔵文化財センターが一括して保管している。
4. 参考・引用文献は巻末に一括して掲げた。
5. 調査から本書の作成に至るまで、多くの方々・機関から指導・協力をいただいた。

目 次

I	平成10年度管内遺跡調査	1
II	下場遺跡範囲確認調査	3
III	宮浦遺跡範囲確認調査	5
IV	猿ヶ馬場A遺跡範囲確認調査	7
V	前田遺跡範囲確認調査	9
VI	西野遺跡範囲確認調査	13

調査体制

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 石崎 海夫）
事 務	新潟市教育委員会埋蔵文化財センター（所長 細川 力）
調 査 員	廣野 耕造（新潟市教育委員会埋蔵文化財センター 文化財専門員） 諫山 えりか（同 上） 朝岡 政康（同 上）
作 業 員	西野遺跡 伊島 純孝・小山 淳治・長谷川 勝・星山 貞二

I 平成10年度管内遺跡調査

1 調査体制

本年度から、埋蔵文化財に係る全ての業務（開発事業に係る遺跡の扱いについての協議・確認調査・工事立会い・本格調査とそれともなう出土遺物の整理作業と報告書作成、公開・普及活動等）を埋蔵文化財センターで所管することとなった。

2 管内調査概要

本年度は本格調査1件、範囲確認調査5件、立会い調査4件の計10件を実施した。

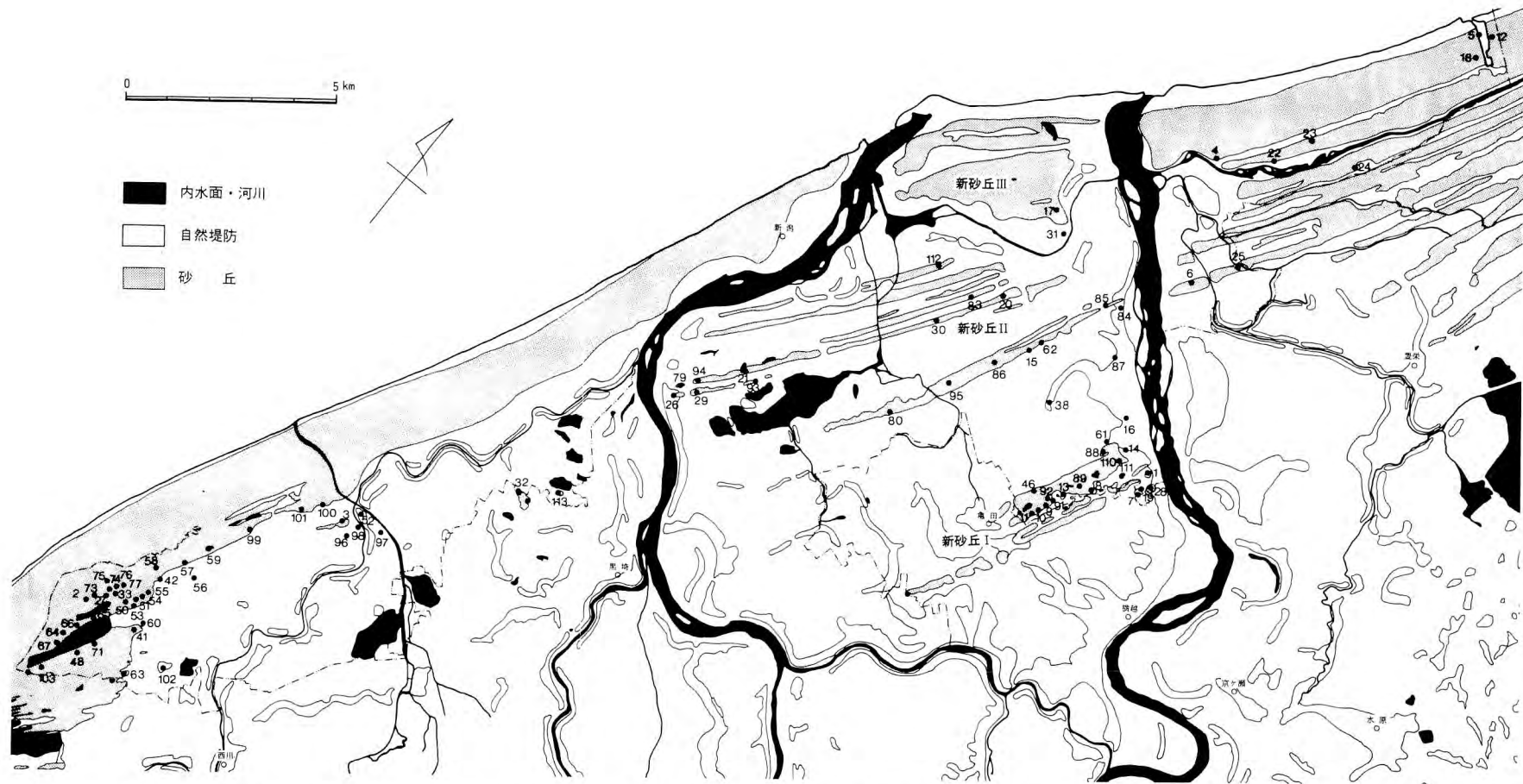
本格調査 大淵遺跡第2次発掘調査（新潟市大淵字林1731番地ほか・5月～7月）を実施した。大淵遺跡は宅地造成ともなう調査で、調査地点は変わるが平成9年の第1次調査に続く調査である。約1,500㎡を調査し、平安時代（9～10世紀）を中心とする遺構・遺物が検出された。

範囲確認調査 宮浦遺跡、前田遺跡で遺物が検出されたが、Ⅲ章・Ⅴ章にその詳細について記した。

立会い調査 山木戸遺跡（遺跡周知範囲内）・高山遺跡（遺跡隣接地）・松山遺跡（遺跡隣接地）・内野潟端A遺跡（遺跡隣接地）について調査を行った。

件数	遺跡名（遺跡No）	調査の種類	原因	調査期間	調査結果・取り扱い
1	大淵遺跡（16）	本格調査	県営宅地造成	5/27～7/10	平安時代（9～10世紀）を中心とする遺構・遺物検出。
2	下場遺跡（86）	確認調査	ケアハウス建設	5/25・26	遺構・遺物検出されず、慎重工事。
3	宮浦遺跡（35）	確認調査	共同住宅建設	7/13	遺物検出。工事による遺跡への影響はないと判断。
4	猿ヶ馬場A遺跡（15）	確認調査	道路改良	10/5	遺構・遺物検出されず、慎重工事。
5	前田遺跡（53）	確認調査	農業用排水路改修	11/10～11/12	遺物・遺物包含層検出。平成11年度に本格調査を予定。
6	西野遺跡（38）	確認調査	農業用水路改修	12/7・8	遺構・遺物検出されず、慎重工事。
7	山木戸遺跡（112）	立会い調査	個人住宅建設	8/17	遺跡への影響はないと判断され、工事着手。
8	高山遺跡（52）	立会い調査	下水道建設試掘	8/27～9/1	遺跡への影響はないと判断され、工事着手。
9	松山遺跡（110）	立会い調査	個人住宅建設	9/1	遺跡への影響はないと判断され、工事着手。
10	内野潟端A遺跡（100）	立会い調査	下水道建設	9/1	遺跡への影響はないと判断され、工事着手。

平成10年度管内調査概要 遺跡番号については第1図を参照。



遺跡No	名称	時代	遺跡No	名称	時代	遺跡No	名称	時代	遺跡No	名称	時代	遺跡No	名称	時代	遺跡No	名称	時代
1	中山	縄文・古墳・平安	21	親仁山	平安・中世	41	大藪	奈良・平安	61	直り山B	平安	81	法華塚	江戸?	101	内野湯端B	中世
2	荒所A	縄文	22	向山	古墳?・平安	42	木山	平安・鎌倉	62	猿ヶ馬場B	鎌倉・室町・江戸	82	津島屋の石仏	南北朝	102	藤蔵新田	中世
3	六地内	弥生・奈良・平安・鎌倉	23	横山	平安	43	赤塚	古墳?	63	坂田	平安・中世	83	竹尾西	平安	103	原付	平安
4	神谷内	奈良・平安	24	上船橋	平安	44	土塚	中世?	64	上谷地A	平安	84	本所居館跡	室町	104		中世(古銭出土地)
5	東港太郎代	奈良・平安	25	築上山	平安	45	大藪塚	鎌倉・室町	65	病院脇	平安	85	石動	弥生・古墳・平安・中世	105		中世(古銭出土地)
6	新崎	奈良・平安	26	神中沢	中世	46	北藪山	平安	66	上谷地B	平安	86	下工場	平安・中世	106		中世(古銭出土地)
7	笹山前	縄文前期~中世	27	赤塚神明社	平安	47	細山石仏	室町	67	沼	平安	87	江口館跡	不明	107		中世(古銭出土地)
8	茗荷谷	奈良・平安	28	城山	縄文・古墳・平安・鎌倉	48	北蒲原A	縄文・平安	68	欠番, No.48内		88	小丸山	縄文・平安・中世・近世	108		
9	彦七山	奈良・平安	29	地蔵山	鎌倉・室町	49	石ナゲ山		69	欠番, No.48内		89	茗荷谷墓地	平安	109	岡山の石仏	中世
10	金塚山	奈良・平安	30	竹尾	中世	50	屋敷浦	弥生・奈良・平安	70	欠番, No.71内		90	欠番, No.13内		110	松山	中世(古銭出土地)
11	前山	奈良・平安	31	古屋敷	室町・江戸	51	屋敷添	平安	71	北蒲原B	平安	91	清水が丘	平安	111	松山向山	平安
12	出山	奈良・平安・鎌倉・江戸	32	緒立城跡	室町・安土桃山	52	高山		72	欠番, No.71内		92	大道外	平安・中世	112	山木戸	古墳・平安・中世
13	丸山	平安	33	神山	縄文	53	前田	弥生~室町	73	荒所B	平安	93	女池稲荷	平安	113	的場	縄文晩期~中世
14	直り山A	平安	34	欠番, No.31内		54	茶畑	縄文・平安	74	ツル子A	平安	94	愛宕の塚	中・近世?			
15	猿ヶ馬場A	平安・室町	35	宮浦	平安・室町	55	ヤマサキ	縄文・弥生・中世	75	吹荒地	平安	95	石山の石仏	中世			
16	大淵	平安・中世	36	溜池	平安・中世	56	伝念野毛	鎌倉・室町	76	ツル子B	平安	96	沢田	中世			
17	居浦郷	平安	37	青山	平安	57	茨曾根	奈良~室町	77	ツル子A	縄文・平安	97	前田	中世			
18	サン化学前	平安	38	西野	平安	58	木山墓所	縄文	78	欠番, No.41内	中世(古銭出土地)	98	高山西	中世			
19	神明社裏	平安・中世	39	庚塚	平安	59	尼池	鎌倉・室町	79	鳥屋野	中世	99	道下	中世・近世			
20	寺山	平安	40	親爺屋敷	平安	60	観音原	縄文	80	石仏山	中世	100	内野湯端A	中世			

第1図 遺跡の分布と地形概念 (1 : 152,000)

II 下場遺跡範囲確認調査

- 1 調査地 : 新潟市中野山4丁目16番40号ほか
- 2 調査期間 : 5月25日～5月26日
- 3 調査面積 : 調査対象面積約2,437㎡ 調査面積20㎡ (調査対象面積の約1%)
- 4 調査員 : 諫山 えりか・朝岡 政康
- 5 遺跡の概要と調査経過

(1) 遺跡の概要と既往の調査

遺跡の概要 下場遺跡は昭和60年度の分布調査により発見された遺跡で、土師質の土器細片が採集されている(文献①)。石山砂丘(阿賀野川以東の新砂丘Ⅱ-2列に対比)の砂丘列上に立地し(文献①)、推定面積は約2,500㎡である。

既往の調査 近年当遺跡に係る調査は開発計画や工事計画を契機として行われている。平成4年度は分布調査と立会い調査が、平成5年度は分布調査と試掘調査が、平成6年度は分布調査と立会い調査が行われた。また平成9年度にも調査が行われたが、いずれの調査も遺構・遺物・遺物包含層は確認されていない。

(2) 調査に至る経緯

当該地にケアハウス(軽費老人ホーム)の建設計画があり、当該地が下場遺跡の隣接地にあたること、建設予定構造物の土木工事が地下に及ぶことを踏まえ、遺跡の範囲・遺存状況・開発による遺跡への影響を確認するため調査を実施することとなった。

(3) 調査の方法と調査結果

調査の方法 ケアハウスの建設予定地(調査時は荒蕪地)を中心にトレンチを設定する予定であったが、大きな樹木が生えていたのでトレンチを設定できなかった。そこで建設予定地にできるだけ近い場所に幅2～3m、長さ3～4mのトレンチを任意に3ヶ所設定した。各トレンチの調査には0.25㎡級のバックホウを使用し、1回に10～20cmずつ掘り下げ、遺構・遺物の有無の確認に努めながら基盤層を確認するか、または崩落の危険を避けるため地表面から2mまでを限度として掘り下げた。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し記録にとどめた。

調査結果 土層の堆積状況は図2のとおりである。調査地は周辺より1m程高くなっている。トレンチのⅠ層・Ⅱ層にピニル等が若干混入していたことからⅢ層以下から自然堆積層と考えられる。また腐食植物が含まれる層が見られることから、旧地表面はこれらの層のやや上面であったと思われる。遺物・遺物包含層・遺構は全く検出されなかった。以上のことから当該調査範囲は下場遺跡の範囲には入らないことが確認された。

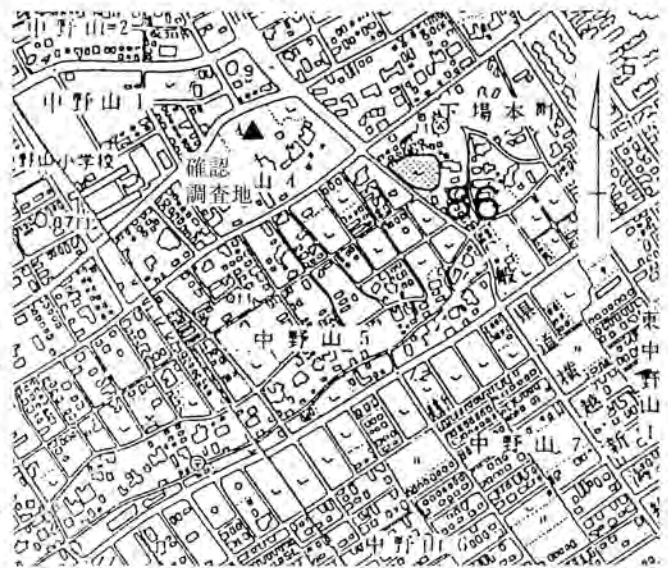


図1 遺跡周辺図 No.86下場遺跡 (S = 1/10,000)

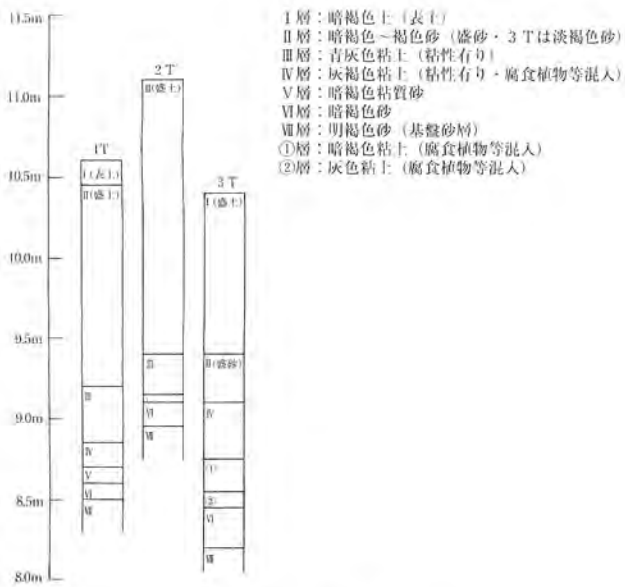


図2 土層柱状図



図3 トレンチ配置図 S = 1 / 1,000



調査区近景（北から）



1T 土層堆積状況（北から）



2T 土層堆積状況（東から）



3T 土層堆積状況（西から）

Ⅲ 宮浦遺跡範囲確認調査

- 1 調査地 : 新潟市河渡本町庚82-1
- 2 調査期間 : 7月13日
- 3 調査面積 : 調査対象面積1,233㎡ 調査面積50㎡ (調査対象面積の約4%)
- 4 調査員 : 廣野 耕造・朝岡 政康
- 5 遺跡の概要と調査経過

(1) 遺跡の概要と既往の調査

遺跡の概要 宮浦遺跡は、新潟県の遺跡地図作成(昭和50年)に当たり行われた分布調査で周知された遺跡で(文献③)、新砂丘Ⅲ列最前列の南斜面に立地する(文献①)。いわゆる式内社として知られる大形神社の(文献⑩)東南斜面に位置する。推定面積は約4,500㎡である。

既往の調査 昭和54年に分布調査、平成4年に立ち会い調査が3回行われているが遺構・遺物とも検出していない。

(2) 調査に至る経緯 当該地(調査時は畑地)に共同住宅を建設する計画があり、当該地が宮浦遺跡の隣接地にあたること、建設予定構造物の土木工事が地下に及ぶことを踏まえ、遺跡の範囲・遺存状況・開発による遺跡への影響を確認するため調査を実施することとなった。

(3) 調査の方法と調査結果

調査の方法 共同住宅の建設予定地(調査時は畑地)を中心に幅2m、長さ5mのトレンチを任意に5ヶ所設定した。各トレンチの調査には0.25㎡級のバックホウを使用し、1回に10~20cmずつ掘り下げ、遺構・遺物の有無の確認に努めながら基盤層が出るまでか、または崩落の危険を避けるため地表面から2mまでを限度として掘り下げた。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し記録にとどめた。

調査結果 土層の堆積状況については図3のとおりである。遺物は1TのⅥ~Ⅻ層にわたって泥めんこ・近世陶器片・瓦片が、3TのⅫ層から近世陶器片が少量検出された(写真1)。遺構はどのトレンチからも検出されなかった。また、2TⅡ層中の暗渠管はプラスチックメッシュ、2T・5T2層中の暗渠管は、割った竹を何本かひとまとめにし、それをビニールで巻いたものであった。

- 6 まとめ 当該調査地はⅣ層の礫を多量に含む盛土層、2T・5Tの暗渠管が示すとおり、大幅な地盤改良がされたようである。畑の畝の跡が検出されたが、さらにその下層から近世陶器が検出されたことから考えると、畑として利用していた期間は短く古いことではないと思われる。遺物も地盤改良に伴い他所から流入してきた可能性が高い。また当該地は宮浦遺跡の周知範囲より2m以上低い箇所である。以上のことから、当該調査地は宮浦遺跡の範囲には入らないと考えられる。

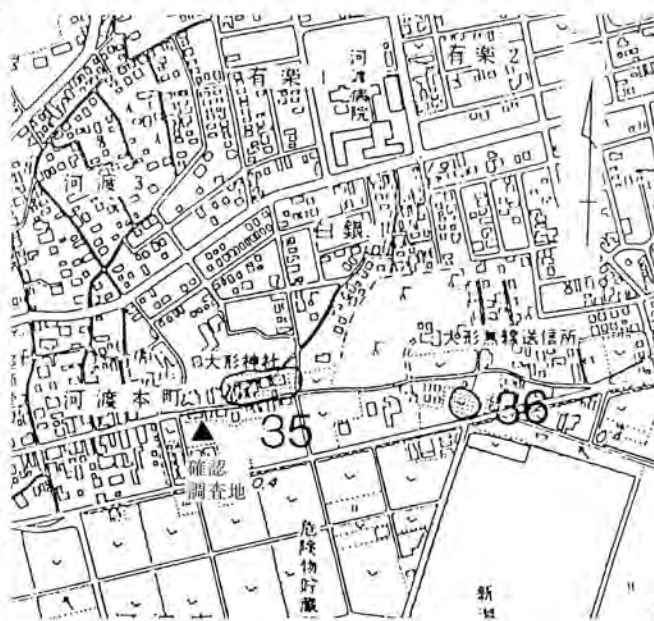


図1 遺跡周辺図 No.35宮浦遺跡 (S = 1 / 10,000)

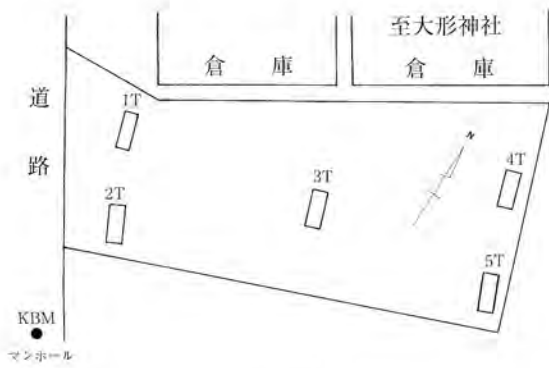
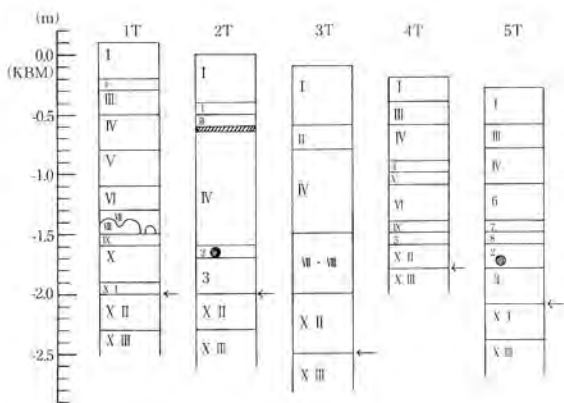


図2 トレンチ配置図 (S = 1/1,000)



出土遺物 (抜粋) S = 1/3

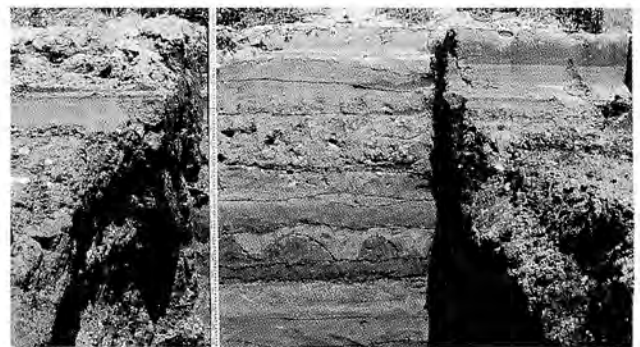


- (1) 土層
- | | | | |
|-------|-------------------|----|---------------------|
| I層 | 表土 | 1層 | 褐灰色砂 |
| II層 | 褐灰色砂 (灰白色砂混入) | 2層 | 灰色砂 |
| III層 | 褐灰色砂 | 3層 | 暗青灰色砂 |
| IV層 | 盛土 (多量の礫を含む) | 4層 | 黒褐色砂 (黄褐色砂ブロック混入) |
| V層 | 灰オリブ色砂 | 5層 | 黒褐色粘土 (植物遺体混入) |
| VI層 | 黄灰色砂 (炭化物細粒混入) | 6層 | 黒褐色砂 |
| VII層 | 灰白色砂 (VI層のブロック混入) | 7層 | 灰黄色砂 (茶褐色ブロック・植物遺体) |
| VIII層 | 灰褐色砂 (粘土混入、畑の畝) | 8層 | 褐灰色砂 |
| IX層 | 黒色砂 | | |
| X層 | 黒褐色砂 (近世陶器入る) | | |
| XI層 | 褐灰色砂 (粘土混入) | | |
| XII層 | 黒褐色砂 (近世陶器入る) | | |
| XIII層 | 灰黄褐色砂 (基盤層) | | |
- 湧水レベル
 ■ 暗渠
 ● (※) I-III層は耕作土

図3 土層柱状図



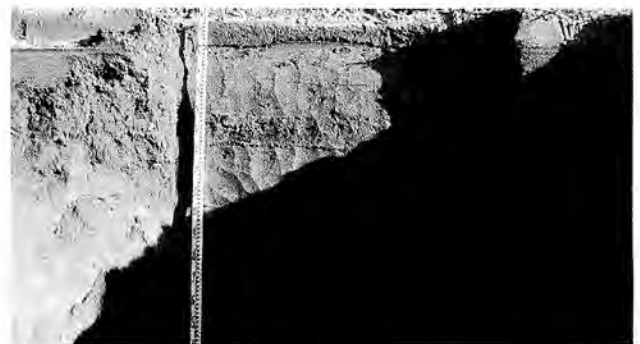
調査区近景 (南西から)



1 T 土層堆積状況 (南から)



3 T 土層堆積状況 (北から)



5 T 土層堆積状況 (北から)

IV 猿ヶ馬場 A 遺跡範囲確認調査

- 1 調査地 : 新潟市東中野山 6 丁目 168 - 3
- 2 調査期間 : 10 月 5 日
- 3 調査面積 : 調査対象面積 217 m² 調査面積 12 m² (調査対象面積の 5.5%)
- 4 調査員 : 諫山 えりか・朝岡 政康
- 5 遺跡の概要と調査経過

(1) 遺跡の概要と既往の調査

猿ヶ馬場 A 遺跡は昭和 37 年度からの石山団地造成で須恵器片・土師器片が出土したとの報告 (文献④) や、昭和 54 年度の分布調査で中世のものと思われる遺物の散布が確認されている (文献②) が、宅地の開発などで遺跡の地点もわかりにくくなってきている。石山砂丘 (阿賀野川以東の新砂丘Ⅱ - 2 列) に対比砂丘列南斜面に立地し (文献①)、推定範囲は約 5,600 m² である。平成 9 年度に隣接する畑地で確認調査が行われたが、遺構・遺物とも確認されなかった (文献⑨)。

(2) 調査に至る経緯

猿ヶ馬場 A 遺跡が隣接する道路部分で道路改良が計画され、建設計画の内容、猿ヶ馬場 A 遺跡の現状等を考慮し、遺跡の範囲・開発による遺跡への影響を確認する調査を実施することとなった。

(3) 調査の方法と調査結果

調査の方法 計画予定範囲 (調査時は未舗装道路) を中心に幅 2 m、長さ 2 m のトレンチを 3ヶ所設定した。各トレンチは 0.25 m 級バックホウを使用し、1 回に 10~20 cm ずつ掘り下げ、遺構・遺物の有無の確認に努めながら調査を行った。地下に水道管が埋設されていたことや、道路幅が狭くトレンチを拡張できなかったこと、調査地に隣接する民家の塀が深掘りすると崩落する可能性があることが予想されたため調査に際してはより慎重な姿勢が望まれた。掘り下げ終了後は土層の堆積状況を観察し記録にとどめた。

- 6 調査結果 土層の堆積状況は図 2 のとおりである。Ⅰ~Ⅲ層・①②層は盛土と思われる。Ⅳ層は自然堆積層と思われる。遺物・遺構は全く検出されなかった。調査はトレンチの掘削深度を制限して行ったが、平成 9 年度に実施した隣接地 (図 3 の送電鉄塔の建つ土地) での調査結果とも併せて考えると、当該調査地は猿ヶ馬場 A 遺跡の範囲には入らないと考えられる。

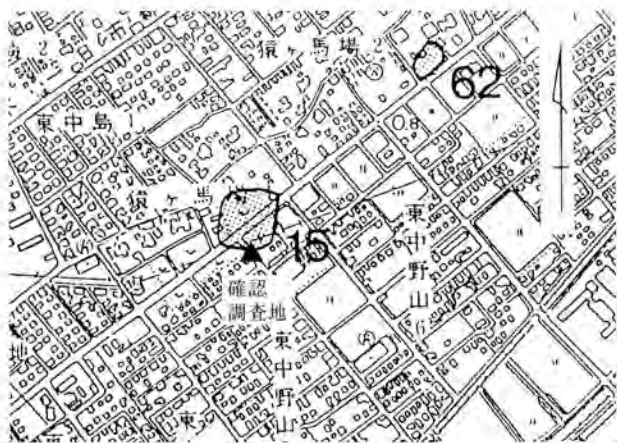


図 1 遺跡周辺図 No.15 猿ヶ馬場遺跡 (S = 1 / 10,000)

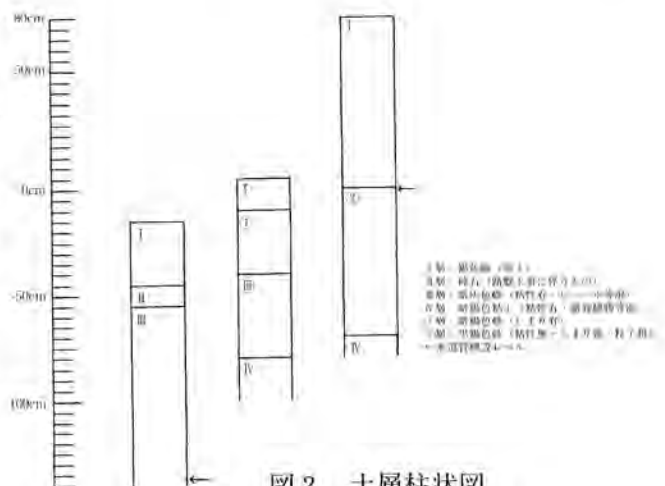


図 2 土層柱状図

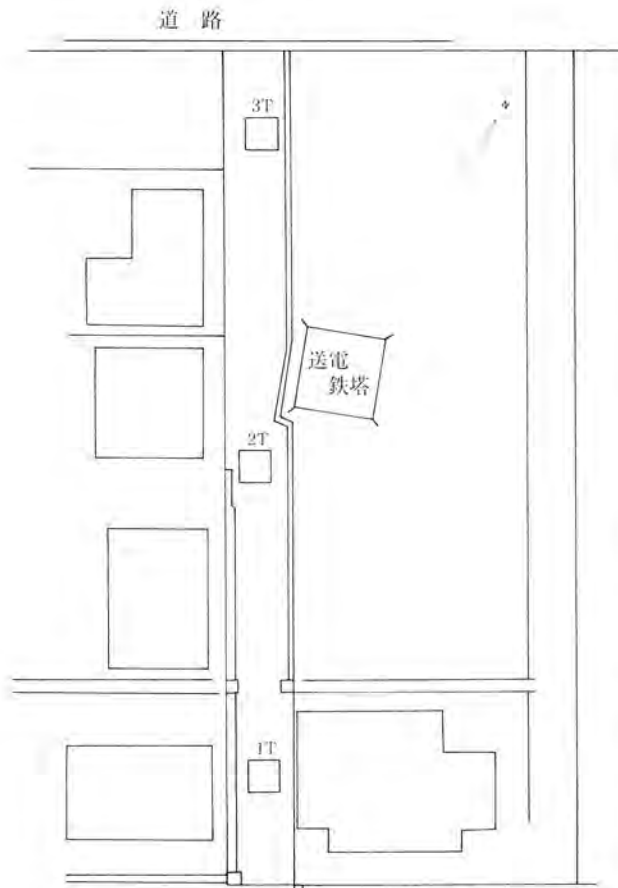
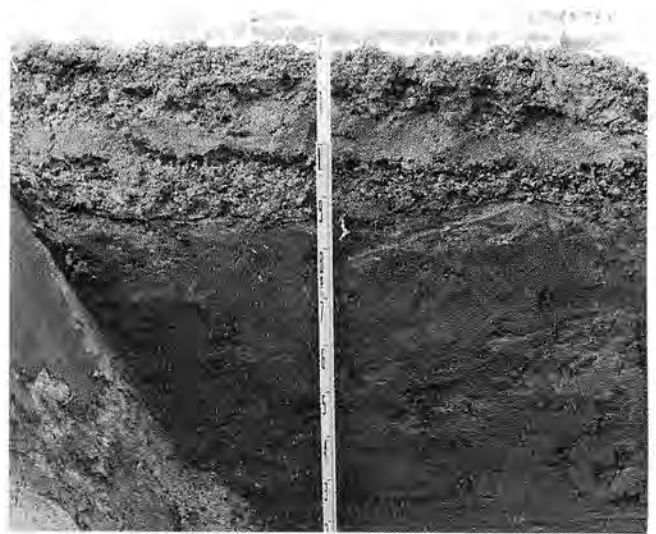
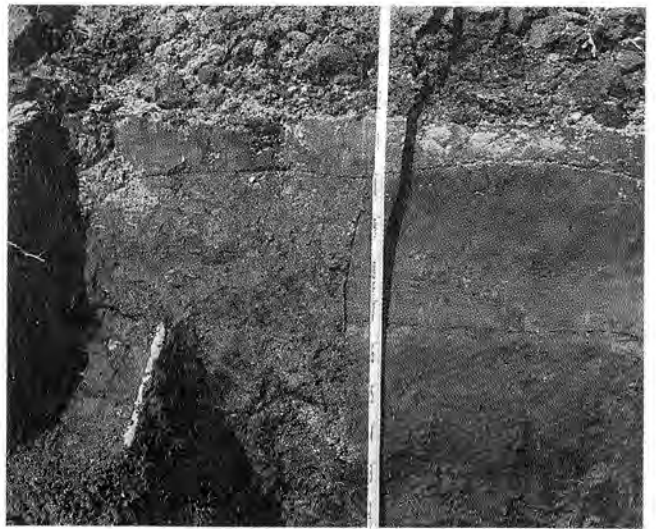


図3 トレンチ配置図 (S = 1 / 500)



1 T 土層堆積状況 (北から)



2 T 土層堆積状況 (北から)



調査区近景 (南から)



3 T 土層堆積状況 (南から)

V ^{まえ} 前田遺跡範囲確認調査

- 1 調査地 : 新潟市神山字前田897ほか
- 2 調査期間 : 11月10日～12日
- 3 調査面積 : 調査対象面積3,300㎡ 調査面積63㎡ (調査対象面積の約2%)
- 4 調査員 : 廣野 耕造・朝岡 政康
- 5 遺跡の概要と調査経過

(1) 遺跡の概要と既往の調査

遺跡の概要 前田遺跡は昭和54年の分布調査で遺物(中世)の散布が確認され、昭和55年に周知化された遺跡である(文献③)。新砂丘Ⅱ-a列(佐潟・御手洗潟間の砂丘列延長)南斜面に立地し(文献①)、推定面積は53,500㎡と広い。

既往の調査 昭和63年に小規模な発掘調査が行われ、遺構・遺物の検出が確認され報告されている(文献⑤)。

(2) 調査に至る経緯 農業用水路(排水路)の改修工事に伴い、計画予定地が前田遺跡の周知範囲に含まれること、建設予定構造物(水路)の土木工事が地下に及ぶこと、過去の調査内容を踏まえ、遺跡の範囲・遺存状況・開発による遺跡への影響を確認するため調査を実施することとなった。

(3) 調査の方法と調査結果

調査の方法 建設予定範囲を中心に幅1.5m、長さ2mのトレンチを任意に13ヶ所設定した。また8-1T・8-2Tは2×6mのトレンチを設定した。各トレンチは0.25㎡級のバックホウを使用し、1回に10～20cmずつ掘り下げ、遺構・遺物等の有無の確認に努めながら基盤層が露出するまでか、または崩落の危険を避けるため地表面から2mまでを限度として掘り下げた。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し記録にとどめた。

調査結果 土層の堆積状況は図3のとおりである。土層の認識については昭和63年の調査とは調査地点が違うので、今回新たに分層することにした。遺物は2T・8-1T・8-2T・10T・11Tから出土した。遺構は検出されなかった。いずれの遺物も、粘土層をはさんで上下に分かれた黒色の砂層から出土しているが、この包含層は標高の低いところに堆積した様相が強く、今回調査した範囲の北側に広がるより標高の高い遺跡の中心部分から流れ込んできて再堆積した可能性もある。また包含層にはかなり多量の遺物が含まれていることからⅧ層上面では遺構が検出される可能性も考えられる。

- 6 まとめ 昭和54年の分布調査、63年の発掘調査、過去の遺物採集記録、そして今次調査の調査結果によって前田遺跡が弥生時代～中世に亘る遺跡であることが分かってきた。よって事業計画と確認調査の結果とを鑑み、7T～13T付近までの約280m、面積にして約1,400㎡を本格調査する必要があり、平成11年度に実施予定である。

遺物 今回の調査では、昭和63年の調査で報告された弥生時代と中世の遺物は検出されなかったが、新たに古墳時代の土器が出土しているのが注目される。出土状況は図3の下表のとおりである。時代を示した片が多く、不明な点を残す。遺物は古墳時代・平安時代・近世のものが混在して出土した。調整の痕跡を良く残すもの、底部等といった部位の分かるものを中心に図化した。1～4は古墳時代・5は時代不明、6は平安時代9世紀後半のものと思われる。

1は外面に縦方向の、内面に横方向のハケが施される。内面は粘土紐の接合痕が残る。粘土紐を積むごとにハケ調整を施しているようで、上の粘土紐が下のハケメにかぶっている。2は底部片である。外面は縦方向のハケ、内面はナデによる調整が施される。3は甕の底部と思われる。外面は指頭による、内面は横方向のハケによる調整が施される。4は底部片である。外面に縦方向のハケ、内面に粗いナデによる調整が施される。外面のハケメは摩耗が進み薄くなっている。5は体部片である。外面・内面とも丁寧なハケが施されている。胎土に砂粒が多く含まれているが、焼成は良好である。6は須恵器の坏である。口径12.4cm・底径6.6cm・器高3.1cm。器壁は薄くロクロ成形痕が明瞭に残る。底部外面は回転ヘラ切り痕を残す。体部中央で屈曲し、口縁直下はかるく湾曲する。焼成は良く、硬質である。胎土には1mm以下の白色粒子が含まれ、外面・内面とも1～2mmの黒斑が散見する。

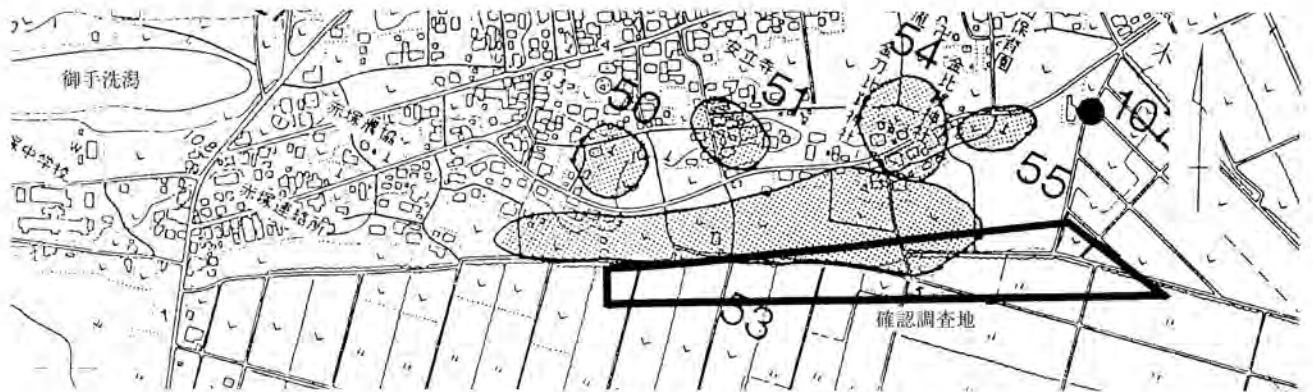


図1 遺跡周辺図 No.53前田遺跡 (S = 1 / 10,000)

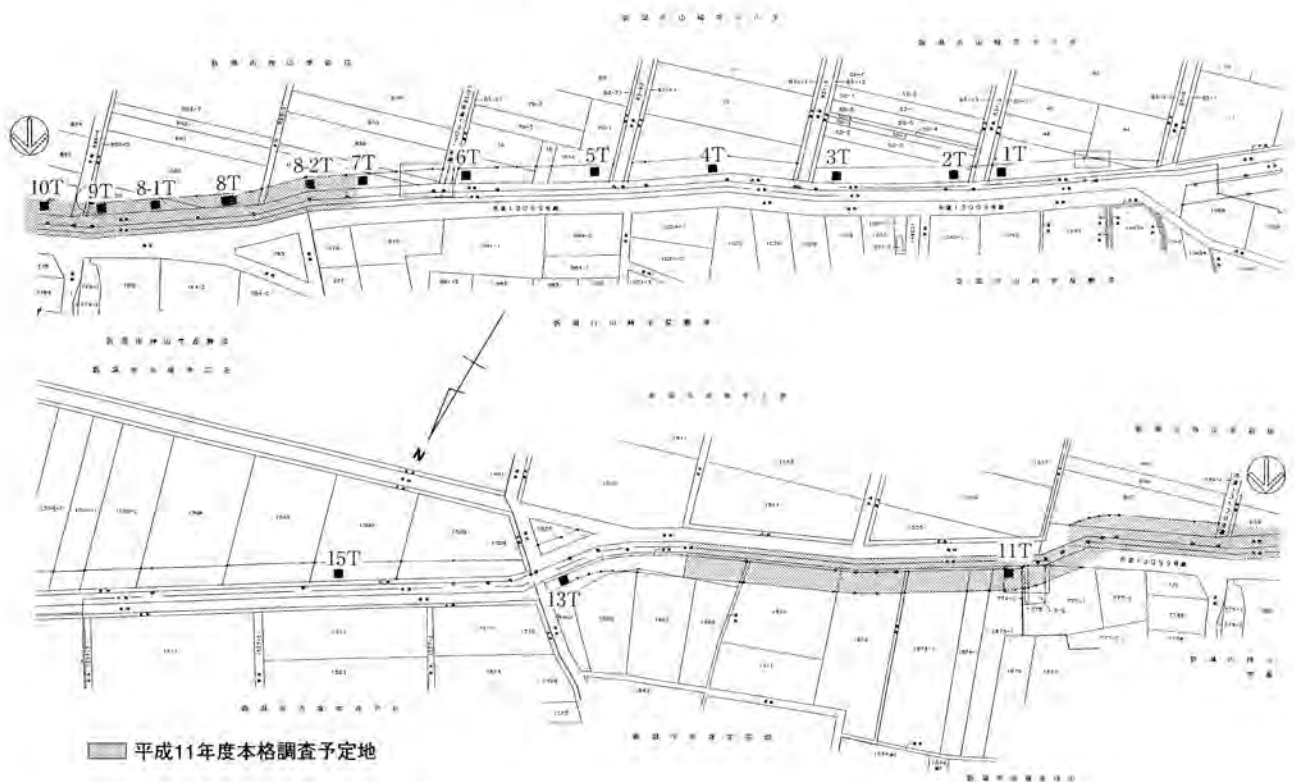
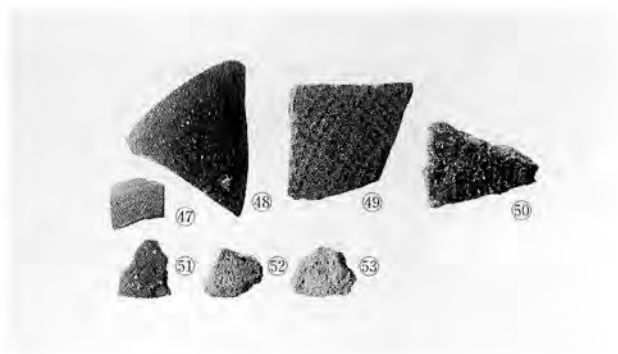
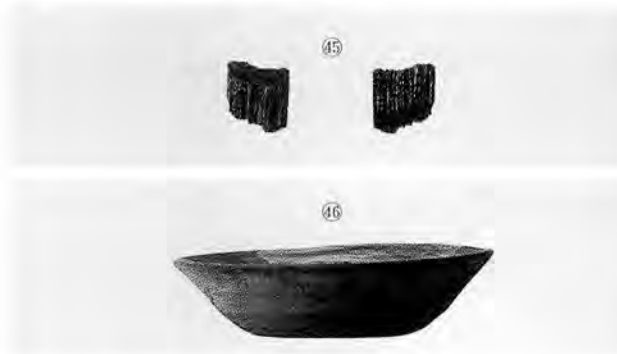
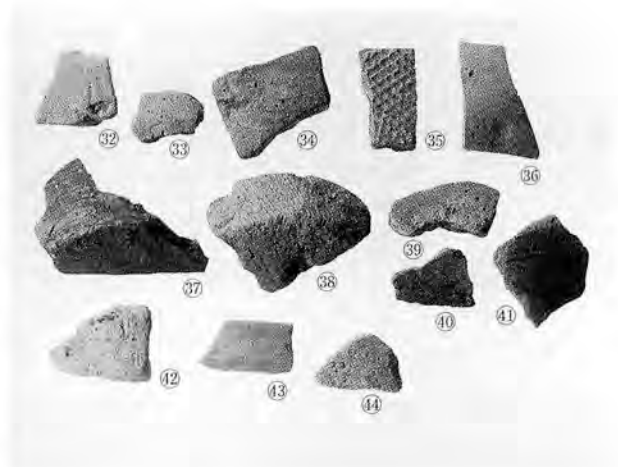
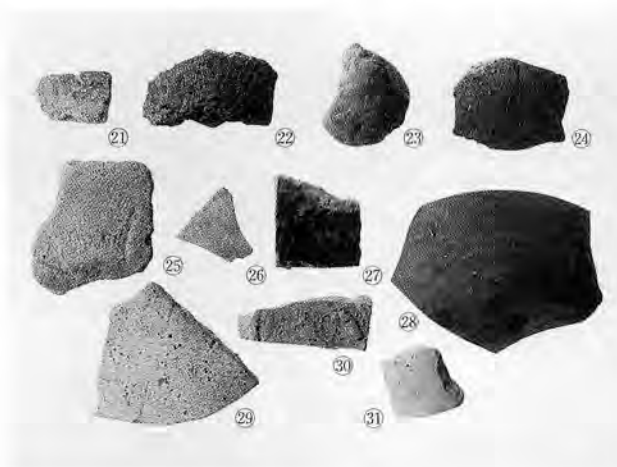


図2 トレンチ配置図 (S = 1 / 2,500)



10 T 土層堆積状況 (南から)



11 T 土層堆積状況 (南から)



8 T 土層堆積状況 (南から)

にし の VI 西野遺跡範囲確認調査

- 1 調査地 : 新潟市西野字寺田515-2ほか
- 2 調査期間 : 12月7日・8日
- 3 調査面積 : 調査対象面積10,340㎡ 調査面積72㎡ (調査対象面積の約0.7%)
- 4 調査員 : 諫山 えりか・朝岡 政康
- 5 遺跡の概要と調査経過

(1) 遺跡の概要と既往の調査

遺跡の概要 西野遺跡は石山砂丘南方の自然堤防に立地する(文献①)。推定面積は約40,000㎡である。分布調査以外の調査は現在まで行われていない。

(2) 調査に至る経緯

西野遺跡が隣接する農道茗荷谷線に沿って走る農業用水路の改修工事が計画され、計画予定地が西野遺跡に隣接していること、計画が西野遺跡から新潟市でも遺跡の集中する大江山地区にも延びていること、改修に伴う土木工事が地下に及ぶことを考慮の上、遺跡の範囲・開発による遺跡への影響を確認する調査を実施することとなった。

(3) 調査の方法と調査結果

調査の方法 計画予定範囲を中心に幅2m、長さ2~3mのトレンチを任意に15ヶ所設定した。各トレンチは0.25㎡級のバックホウを使用し、1回に10~20cmずつ掘り下げ、遺構・遺物の有無の確認に努めながら基盤層が露出するまでか、または崩落の危険を避けるため地表面から2mまでを限度として掘り下げた。掘り下げ終了後土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

調査結果 土層の堆積状況については図1のとおりである。トレンチは水田面と隣接していることもあり、湧水が激しく調査は困難を極めた。9Tは掘削を行ったが湧水による崩落が激しく、記録を取ることができなかった。I~IV層は道路建設もしくは旧水路敷設時の影響を受けた層でV層以下から自然堆積層と考えられる。どのトレンチも粘土層が厚く堆積しており、当該調査地が低湿地であったであろうと考えられる。また3T・10T・12T・13Tでは腐食植物が混入する粘土層の下に黒褐色・暗褐色の砂層が確認された。掘削時に出た排土も調べたが、この層からは遺物は検出されなかった。全てのトレンチから遺物・遺構は全く検出されなかった。以上のことより、当該調査地は西野遺跡の範囲には入らないことが確認された。

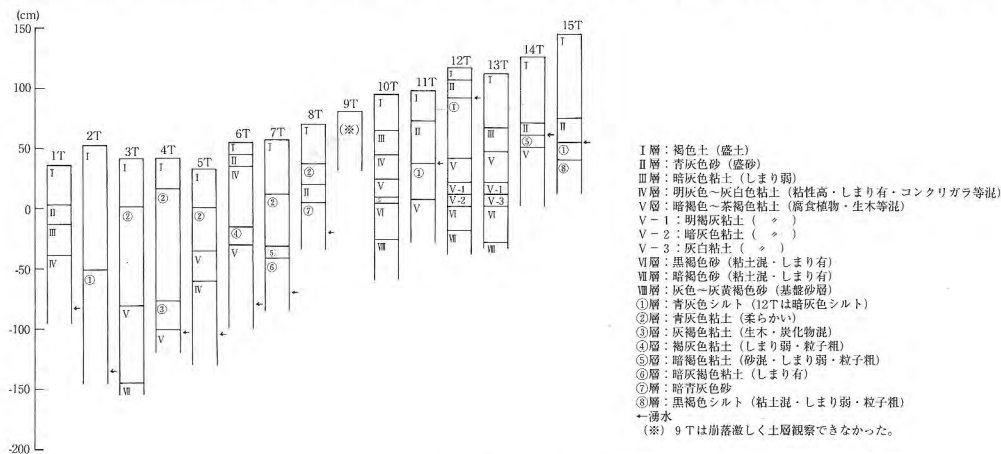


図1 土層柱状図

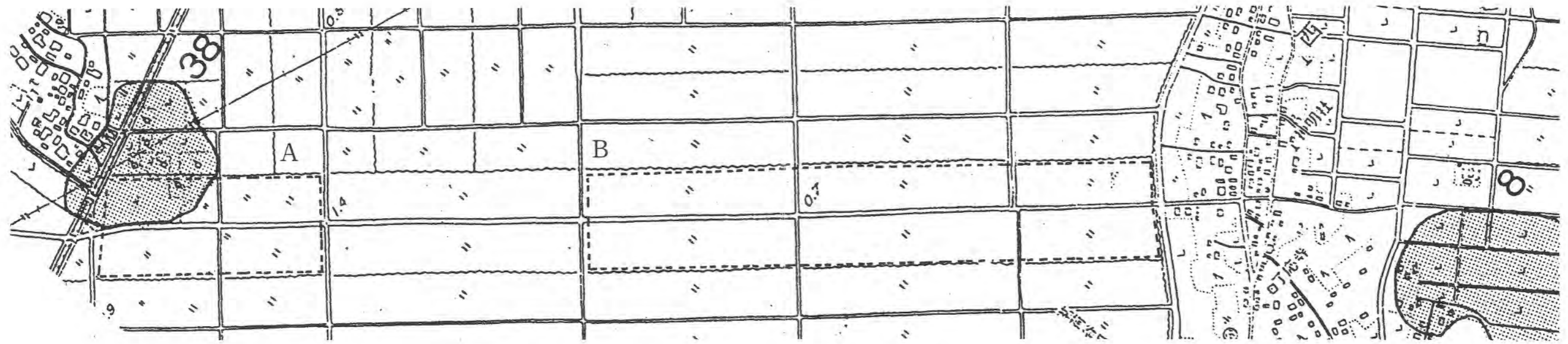
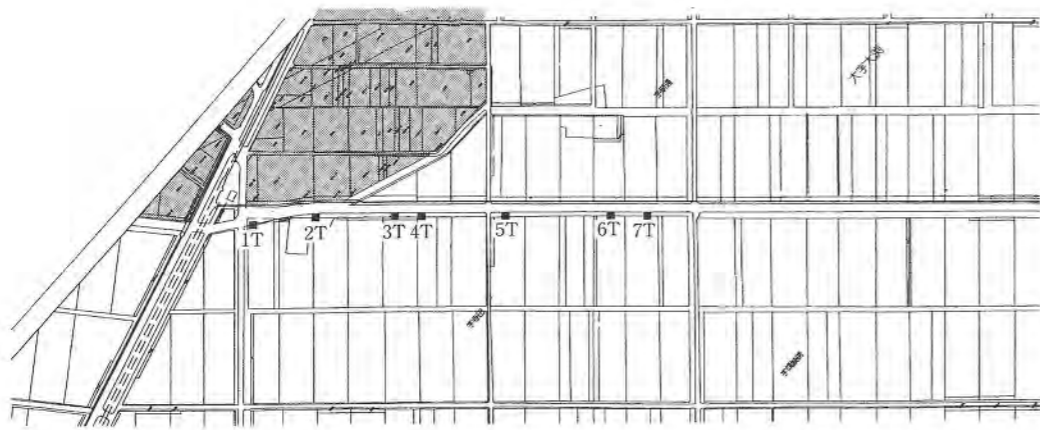
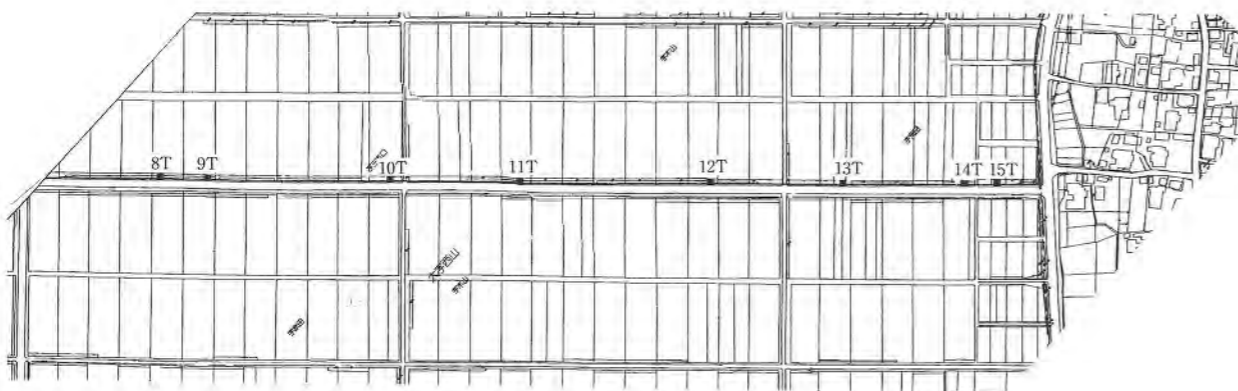


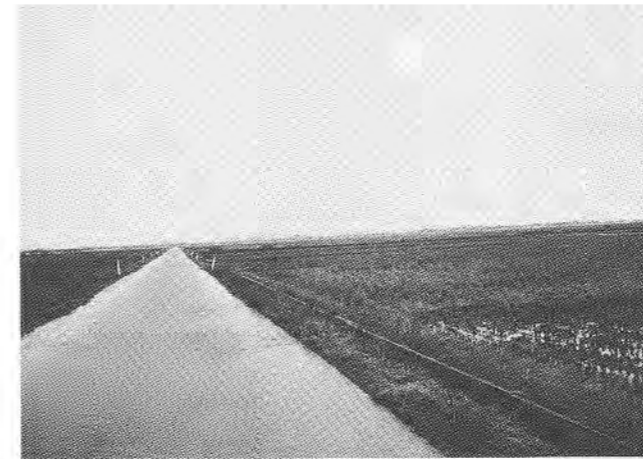
図2 遺跡周辺図 No.38西野遺跡 (S = 1 / 10,000) 真上が北



A区 トレンチ設定図 (S = 1 / 5,000) 真上が北 西野遺跡



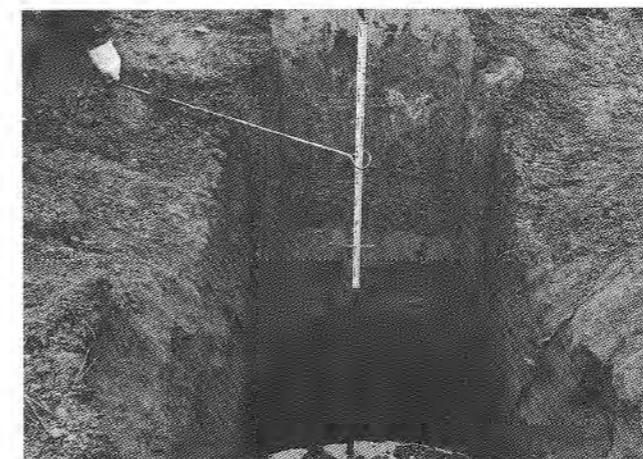
B区 トレンチ設定図 (S = 1 / 5,000) 真上が北



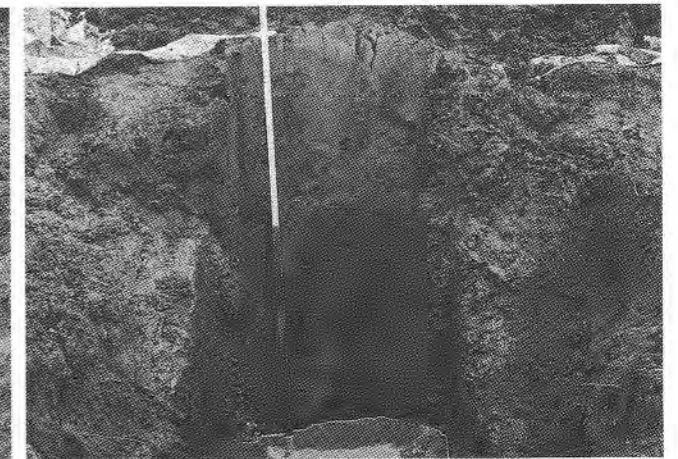
調査区近景 (西から)



1T 土層堆積状況 (北から)



10T 土層堆積状況 (南から)



13T 土層堆積状況 (南から)

報告書抄録

ふりがな	へいせい10ねんどまいぞうぶんかざいほくつちょうさほうこくしよ							
書名	平成10年度埋蔵文化財発掘調査報告書							
編著者名	朝岡政康							
編集機関	新潟市教育委員会埋蔵文化財センター							
所在地	〒951-8550 新潟県新潟市学校町通1番町602番地1							
発行年月日	西暦1999年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
げばいせき 下場遺跡	にいがたけん 新潟県新潟市 なかのやま 中野山	15201	86	37度 53分 58秒	139度 06分 15秒	19980525 ～ 19980526	69	軽費老人ホーム建設に伴う確認調査
みやうらいせき 宮浦遺跡	にいがたけん 新潟県新潟市 こうどほんちやうかのえ 河渡本町庚	15201	35	37度 55分 58秒	139度 06分 30秒	19980713	312	共同住宅建設に伴う確認調査
ざるがばあいせき 猿ヶ馬場A遺跡	にいがたけん 新潟県新潟市 ひがしなかのやま 東中野山	15201	15	37度 54分 12秒	139度 07分 04秒	19981005	24	市道敷設に伴う確認調査
まえたいせき 前田遺跡	にいがたけん 新潟県新潟市 かみやまあぎまえた 神山字前田	15201	53	37度 49分 18秒	139度 06分 21秒	19981110 ～ 19981112	24	農業排水路改修工事に伴う確認調査
にしのいせき 西野遺跡	にいがたけん 新潟県新潟市 にしのあぎてらだ 西野字寺田	15201	38	37度 53分 49秒	139度 06分 21秒	19981207 ～ 19981209	240	農業用水路の改修工事に伴う確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
下場遺跡	包含地	平安・中世						
宮浦遺跡	包含地	平安				近世陶器片等 17点		
猿ヶ馬場A遺跡	散布地	平安・室町						
前田遺跡	包含地	弥生～室町				古式土師器片 6点 土師器片 30点 須恵器坏 2点 須恵器甕片 1点 加工木片 1点 不明土製品 1点		今次調査で新たに古墳時代の遺物が検出した。
西野遺跡	包含地	平安						

参考・引用文献

- ①新潟市 1994 『新潟市史 資料編1』
- ②新潟市教育委員会 社会教育課 1979 『昭和54年度新潟市文化財調査資料』
- ③新潟市教育委員会 社会教育課 1980 『新潟市文化財調査報告書』
- ④新潟市合併町村史編集室 1986 『新潟市合併町村の歴史』第4巻
- ⑤新潟市教育委員会 1989 『1988年度埋蔵文化財発掘調査報告書』
- ⑥新潟市教育委員会 1993 『平成4年度市内遺跡発掘調査報告書』
- ⑦新潟市教育委員会 1994 『平成5年度市内遺跡発掘調査報告書』
- ⑧新潟市教育委員会 1995 『平成6年度新潟市文化財概要』
- ⑨新潟市教育委員会 1998 『平成9年度埋蔵文化財発掘調査報告書』
- ⑩「延喜式」神祇十 神名下 『新訂増補国史大系』 吉川弘文館
- ⑪坂井秀弥ほか 1989 『新潟県埋蔵文化財報告書第53集 山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会

平成10年度埋蔵文化財
発掘調査報告書

発行日 平成11年3月
発行 新潟市教育委員会
新潟市学校町通1番町602番地1
〒951-8550 電話 (025)228-1000
印刷 (有) 太陽印刷所
新潟市和合町2丁目4番18号
〒950-0985 電話 (025)382-7651